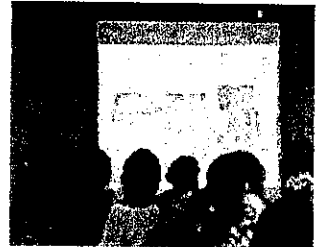


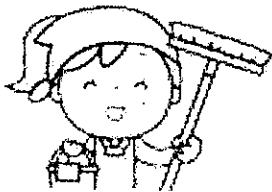
第三回家庭教育学級 報告書

11月30日水曜日、本年度最後となる第三回家庭教育学級が行われました。お片づけのプロ、橋口真樹子先生をお招きして「子どもの視点から見てみよう！親子でスッキリお片づけ」の講演に約70名の参加者にお集まり頂きました。終了後のアンケートには沢山の感想が書かれており、普段の片づけの困り事に対する意識の高さが伝わってきました。皆様の心に響くとともに有意義な講座が開催できた事、講師の先生をはじめ、ご協力いただいた皆様、ご参加いただいた保護者の方々に深く御礼申し上げます。



講座概要

プロジェクターを使用し、先生ご本人のご自宅写真を交えながら整理・整頓の意味を教えて頂き「そもそも片づけは誰のため？」という問いから始まった講演会は、「一瞬で片づく魔法の収納術」や「常に美しく保たれる住居」が非現実的であることを前置きしたうえで進められました。ポイントは「子どもがいる空間は散らかって当たり前」を受け入れ、整理された空間をいかに短時間で作り出すか、その仕組みを確立する事です。



1. 定位置 (使う場所に収納する)
2. 適量 (管理できる量、使っている・使っていないで整理)
3. 収納法 (行き先別に仕分ける)
4. 子どもとの関わり方 (相手への伝え方、まずはシンプルに伝える)



子どもと片づけをする事は単に住居をきれいにするにとどまらず、子どもの力を信じて取捨選択をさせ、子ども自身が「判断力・選ぶ力」を養う大切な訓練で、「生きる力を育む」意味もあるという点が残りました。それはまた、根気よく声がけを続け自分の価値観を子どもに押しつけないという訓練の場でもあります。最後に「住まい」は人が主役であり、「きれいな部屋」ではなく「人が幸せな部屋」「わが子の成長」を楽しみながらゴールにしましょうという先生の言葉が参加者の心にとても深く響きました。

アンケートより

- ・先生の実際のエピソードにもすごく共感できたとし、「うん、うん」とうなずけるお話ばかりでした。お片づけの本などは沢山ありますが、子どもの物を中心に書かれている本はあまりなかったのでとても参考になりました。
- ・子供との関わり方、親と子の信頼感と片付けは子育ての大切なポイントにつながっていると思いました。
- ・今まで片づけとはきれいにする事だと思っていました。見て分かる整理をしてみたいと思います。
- ・まさに整理整頓されたお話でした。子どもへの声のかけ方・見守り方・とらえ方等も非常に参考になりました。
- ・物を捨てられない子どもの気持ちを尊重して一緒に整理していきたくと思いました。
- ・自分自身が片づける=隠すことが多いので反省しました。子どもの片づけにどうしても口出ししてしまう事が多いので今日から一呼吸して見守るように心がけようと思います。
- ・家族目線・特に子供の気持ちを考慮する思いやりの“片付け”実践したいと思いました。

